

里地と集落 文化のつながり

集落や文化の 保全

里地は、かつて、人々が自然に手を入れ、燃料や木材、道具や食料を持続的に得るために長期にわたり安定した暮らしが営まれてきた場所です。現代の生活とは異なるため、里地集落のあり方は変わりましたが、伝統的な行事や芸能の中には、学ぶべき多くの知恵や文化が継承され隠されています。この文化は、地域の個性として誇りとなり、観光や都市との交流など経済的な価値にもなります。

事例 ^{いいやまし} 長野県飯山市

伝統文化の保全は里地の保全

伝統的な行事や芸能の継承は、山や川のもの、野生動物、里や田畑の産物、伝統食、蓑笠やわらじなど、現代生活では使わなくなった樹木や植物、山や川の生物との関わりを復元します。伝統文化の保全は、それ自体が里地保全であり、ツーリズムであり、産品開発の核となります。



長野県飯山市の小菅の里は、山岳信仰、修験の場でした。小菅集落では、自然への畏敬の念と感謝の心を伝統行事として継承するとともに、北竜湖の保全や里山の保全管理を集落ぐるみで行っています

食文化の発掘は里地の保全

伝統的な食文化を掘り起こすと、その土地固有の在来種の作物が再発見されます。その土地の風土に合った作物を使った食文化、産品は地域の個性であり宝です。加工方法、保存方法、食べ方を、かまどや囲炉裏などととも復活させれば、新たな交流の場が生まれます。



食文化は、風土切り離せない



冬の寒さが保存食の文化を築く